



No.72 2013.09.13  
東洋英和女学院  
<http://www.toyoeiwa.ac.jp>

季節の小窓

夏の間多くの方をお迎えした追分寮。秋には庭一面色鮮やかな紅葉の絨毯が出現します。(軽井沢追分寮)



# 楓

ふうえん

# 園

TOYO EIWA JOGAKUIN  
Public Relations Report

特集1

## 池田 守男 理事長・院長追悼

特集2

## 水澤 郁夫 新理事長就任

特集3

## 大学・大学院紹介

- 9 NEWS 中高部／小学部／東洋英和幼稚園／大学付属かえで幼稚園
- 12 英和の日々
- 13 この人に聞く 木南 麻浦
- 14 聖書の言葉／史料室レター／訃報
- 15 英和星空探訪／同窓会より／後援会より／桜プロジェクト報告



大学キャンパス

緑豊かな丘の上に広がる自然あふれるキャンパスは、四季折々美しい表情を見せてくれます

# 池田守男理事長・院長追悼

「<sup>あた</sup>興ふるは受くるよりも<sup>さいはひ</sup>幸福なり」

使徒言行録 二〇章三五節

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙 十二章十五節

誕生 一九三六年二月二五日(金)  
洗礼 一九五五年一月二三日(日)  
召天 二〇一三年 五月二〇日(月)

香川県高松市生まれ。

一九六一年、東京神学大学神学部卒業後、株式会社資生堂入社。二〇〇一年代表取締役社長、二〇〇五年に取締役会長に就任し、相談役を経て二〇一三年四月より特別顧問。

二〇〇二年一月に学校法人東洋英和女学院評議員、二〇〇四年五月に理事、二〇〇五年六月、理事長に就任し、二〇〇七年四月より院長を兼任する。

これまで内閣府公益認定等委員会委員長、経団連評議員会副議長、東京商工会議所副会頭、日本商工会議所特別顧問、教育再生会議座長代理などの公職を歴任。

二〇〇六年に「日本宣伝大賞」、

「新渡戸・南原賞」を受賞。著書に『サーバントリーダーシップ入門』（金井壽宏氏との共著）がある。

学院内では「東洋英和楓の会」を創設し、学院関係者を深い絆で結び合わせることに努めたほか、常設の学院史料展示コーナーを作り、『カナダ婦人宣教師物語』を刊行するなど、歴史を大切にし、そこから学院が進むべき道を見出すべきとした。また野尻での野外教育の意義を深く理解し、キャンプサイトの改築を行った。他に六本木五丁目西地区の再開発についても、学院の将来に係る課題として取り組んだ。

日本基督教団銀座教会会員。



2009年9月 東洋英和幼稚園にて



2007年5月11日 院長就任式



2013年4月2日 大学入学式



2008年7月 野尻キャンプサイトにて

二〇一三年五月二〇日に、池田守男理事長・院長がご病気のため逝去されました。池田先生のこれまでの英和でのお働きに深く感謝し、哀悼の思いを表したいと思います。

## 池田守男さん

学長・副院長 村上陽一郎

あなたの蓋棺の辞を、私が書くことになるとは、まことに思いがけぬことでした。初めてお目にかかったのは、神のご采配によってか、図らずも本学の学長という職務を引き受けすることになり、東洋英和女学院の理事長・院長であるあなたに、ご挨拶に伺ったときですから、

いただいたご厚誼は、それほど長いものではありませんでした。しかし、折りに触れて、お人柄を知り、そこから生まれる独特の哲学を知るに及んで、同い年生まれ、数ヶ月は先輩の私ですが、教えをいただくことの多い年月でした。

マタイによると、イエスは、いわゆる山上の垂訓の後、「地の塩・世の光」の件で、こう言われた、とあります「あなた方は世の光である、山の上にある町は、隠れることができなご」。この「山の上の町」という表現、英語での「City upon a hill」は、今ではアメリカの大統領が、自国を賛美し、あるいは自国の掲げる理想を語るときの、専用句のようになつてしまいました。が、むしろ自分に従う人間一人一人に当てはまることとして、イエスは説かれたと私は信じます。そしてこの表現に接する度に、私は、池田さん、あなたを思い出すのです。あなた

は、穏やかに、常に人の「下」にある姿勢を崩さず、しかし、毅然として事に当たる、その姿が、自ずから光りを放ち、人々から仰ぎ見られる存在であつたと思います。それは、資生堂という大きな組織においても、そうであつたに違いありません。

池田さん

今、あなたは、奥様と共に天に召されて、残された私どもは信頼するリーダーを失つて、戸惑つております。しかし、あなたが蒔かれた種は、私たち一人一人のなかに根を下ろし、花を咲かせるに違いありません。私たちはキリスト者として、永遠の生命を信じるものですが、永遠の生命の一つの形は、一人の人間の残した思念が、理想が、周囲の人々に託され、時代を超えて、受け継がれていくことにある、と私は思っています。

残されたご遺族の将来はもとより、私ども学院の将来も、あなたから見守り続けてくださることを信じ、失われた空白を哀しみながらも、前に進んでいくこうとする私どもを、どうかお助けくださいと願います。すべての人々の祈りとともに、この拙い言葉を、御霊の前にお捧げいたします。

## 追想 池田守男先生

副院長 吾妻國年

台風接近の日、戸外は荒れ模様でしたが、大講堂内は、ピアノスト仲道郁代さんによる「ショパンの調べ」の美しい時の流れと温かい雰囲気であつた。シヨパンの生涯を語りながら、演奏するプログラムです。「東洋英和楓の会」発足後の二年目(二〇一〇年)の六月、初めて講演会を開催し、秋は鑑賞行事として、このコンサートが実現したのです。演奏会終了後「楓の会役員総会」の直前、「楓の会」生みの親の池田先生は、なにか陶然とした面持ちで椅子に座わっていました。来会の皆様が喜ばれていたことを伝えると、先生はアンコール演奏の「ノクターン第二〇番遺作」のことに触れて、「昔、所用でポーランドを旅した時のこと、ワルシャワ駐在の日本大使の招待を受け訪問したのです。すると大使は私ひとりのために、プロのポーランド人ピアノストによる『ショパンの夕べ』を催してくれたのですよ。二つの演奏会を合せ味わうかのよう、とても幸せそうでした。

「年のせいか涙もろくなった」と言い訳をされながら、高等部卒業生の「信仰・希望・愛」に感動して目をうるませ、小学部生たちの演技や合唱に、また幼稚園児たちが口をいっばい開けて一生懸命歌うさまに、涙ぐむことしばしばでありました。時に困難な問題に直面してその事実と状況の報告をすると、先生は理解と納得がゆく場合には、手立てをも教示されて「責任は私が取ります」と明言された。サーバント・リーダーシップの一端を垣間見る思いであります。初めて野尻のあの棧橋に立たれた時、ここには「場の力が存在する」と言われた。少年・青年期の、美しい瀬戸内の海と自然の原体験と、後の外海の大自然の威力や美の体験から自ずと生まれた洞察と言つて過言でないでしょう。その施設改築では「中途半端なものを作るな」と戒められました。また先生には幾つもの教会から伝道講演の依頼がありました。が、遠い地方の小さな教会であっても、時間が許す限り一つ一つに応じられる姿勢を崩しませんでした。お心には若き日の「献身」の時から「伝道者魂」がずっと息づいていたのです。

今、私は言い知れぬ喪失感に耐えかねております。このようなお人柄の方にお仕えることが許されましたこと。これは私の生涯における幸せな出来事であつたと思つております。

# 池田 守男 理事長・院長追悼礼拝



## 式次第

司 式 副院長 牧師 吾妻 國年  
奏 樂 学院オルガニスト 河野 和雄

閉式の辞 理事長代行 水澤 郁夫  
前 奏 バッハ作曲 カンタータ「神の時はいと良き時なり」よりシンフォニア  
招 詞 ヨハネによる福音書3章16節  
中高部聖書科教諭 牧師 高橋貞二郎  
讃美歌 120 (讃美歌21)  
聖 書 ヨハネの黙示録7章9～17節  
小学部長 牧師 山本 香織  
祈 禱 司 式 者  
奉 唱 O. Gjeilo作曲 Ubi Caritas (慈しみと愛あるところに神はおられる)  
中高部合唱部  
式 辞 常務理事 牧師 大宮 溥  
祈 禱  
お別れの言葉 キリスト教学校教育同盟理事長 佐藤東洋士 様  
後援会会長 金子 栄一 様  
同窓会会長 松本 幸恵 様  
学長 副院長 村上陽一郎  
讃美歌 312 (故人愛唱)  
祝 福 大学宗教主任 牧師 吉岡 良昌  
後 奏  
ご遺族挨拶 池田 泰士 様  
閉式の辞 理事長代行 水澤 郁夫

二〇一三年六月一六日(日)二時半より、中高部の新マーガレット・クレイグ記念講堂にて池田理事長・院長の追悼礼拝を執り行いました。学院関係者、在校生代表、保護者、同窓生、ご遺族など、約五三〇名が参列して共に礼拝を守り、池田先生への思いが込められた式辞をはじめお別れの言葉を伺いました。池田先生が愛してやまなかつた在校生による合唱の澄んだ歌声は、先生の許にも届いたに違いありません。

「一粒の麦 地に落ちて死なずば一粒に過ぎず。されどその麦 地に落ちて死なば多くの実を結ぶなり」との聖書のみ言葉どおり、一粒の麦のごとく全身全霊をもって社会のために、また東洋英和のためにご奉仕くださった池田先生の生き方を改めて思い起こし、先生への思いと感謝の気持ちを深くする時となりました。最後に、ご遺族を代表してご長男の泰士様よりご挨拶をいただきました。



池田 泰士様



別れの言葉を述べてくださった方々



大宮溥牧師

# 水澤 郁夫 新理事長就任



## ■プロフィール

1955年青山学院大学経済学部商学科卒業、日本銀行入行。1976年オリックスに入社、同社常務取締役を経てオリックス生命保険株式会社取締役副社長を務める。学院では1977年より評議員、2007年より理事、常務理事(経営担当)。2013年5月より理事長代行。青山学院評議員、北関東学園理事、聖公会神学院理事も歴任。

## 私と東洋英和女学院との出会い

池田理事長・院長が逝去された直後から理事長代行としてお働きくださった水澤 郁夫 経営・開発担当常務理事が、二〇一三年七月一日に開催された理事会において、理事長に選任されました。

新理事長 水澤 郁夫

このたびは図らずも東洋英和女学院の理事長に選出され、七月一日に就任した水澤郁夫であります。当学院では、評議員、同会議長を一〇年程度やっておりますが、そののちご縁があつてか常務理事(経営・開発担当)として前理事長を補佐して参つたところで、ご存知のように池田前理事長が急逝されましたため、理事会において私が理事長に選出され、本年七月一日就任した次第です。よろしくお願ひ申し上げます。

さて、私が東洋英和女学院を知るところとなつたのは、一九四八年九月一三日、私の一六才のときのことです。その日、私がかつて通園しておりました埼玉県大宮市にありました大宮愛仕幼稚園の園長先生のエリザベツ・アプタン先生(日米

戦争で一時米国籍国中)が、日本に戻り、卒業生が歓迎会を行ったのですが、中学四年生の私も参加したのです。その折その会場である日本聖公会大宮聖愛教会の新任牧師と同夫人が紹介されました。その折の斉藤万里夫人(旧姓鈴木・二八才)が東洋英和女学院の幼稚園師範科の卒業生だったので、

私はその後、十二月一日に再び教会をたずね、斉藤牧師と同夫人といろいろお話し、以後毎週日曜には教会出席、その年の十二月二五日に洗礼を受けたのです。ところでその頃、大宮の教会の主な行事のときに必ず現れる女性二人がおりました。一人は荒牧富士子さん、今一人は南沢志げさんです。お二人とも東洋英和女学校幼稚園師範科の卒業生らしく、かつ牧師

夫人斉藤万里先生の親友で、この三人は東洋英和出身の幼稚園教師の三羽鳥と他にも称されていたようでした。この二人は牧師以上にやかましく、常にお祈りをしているか、聖書をしっかりと読んでいるか、など一六才の少年と会うたびに指導する、いわば、「うるさい先生」でした。このうち荒牧先生は、東洋英和幼稚園の園長、南沢先生は、のちに開園した青山学院幼稚園の初代主任となりました。要するに東洋英和女学院は、私の一六才のとき出会い、少年の生き方を示し続けてくださった方々が学んだところなのです。今八二才の私は、いささかのご恩返しと思つているところです。

三羽鳥が私に言っております。「今こそ敬神奉仕のときよ。わかつてる!」。



## 学生サポート紹介 かえで給費奨学金

かえで給費奨学金とは、3年次を対象とした返還不要の奨学金です。選考にあたっては、スカラシップ入学生以外の学生の中から、1・2年次の成績のほか、人物的に優れ、学内の課外活動などに積極的に参加している学生を対象にしています。

### 支給額

年額24万円  
(原則として4年次も継続)

### 採用人数

毎年3年次生15名、4年次生15名の計30名を限度とする。



かえで祭実行委員会講演会チーフを務める井上さん

かえで給費奨学金というかたちで、この二年間の学生生活を評価していただけたことを大変嬉しく思います。私は、かえで祭実行委員会への所属や語学留学など、さまざまな活動をする一方、勉強が学生の本分だとも考えているので、日頃の授業も大切にしてきました。今年是在日難民の子どもたちへの学習支援ボランティアを始め、夏には研修旅行でミャンマーを訪れました。奨学生としてこれからもいろいろなことに挑戦し、楽しく充実した毎日を送りたいと思います。

国際社会学部国際社会学科三年

井上 柚

かえで給費奨学金の給費を受けて

## クラブ紹介

### おもちゃサークル Wendy House

人間科学部保育子ども学科四年

川角 さえ

おもちゃサークルは、保育子ども学科を中心に、子どもやおもちゃに興味のある学生が週に二回ほど昼休みに部室に集まり、主なイベントであるかえで祭に向けておもちゃづくりをしたり、準備を進めたりしています。布を使って作るままとセットや魚釣りゲーム、牛乳パックなどの廃材を使って作るおもちゃ等、部員それぞれが「面白そう」「作ってみたい」と感じたものを作っています。

かえで祭では、魚釣りコーナーや制作コーナーのほか、手作りおもちゃの販売も行っています。毎年魚釣りは人気で、幅



えだ福祉ホームさんでのクリスマス会で作ったクリスマスカード(参加した子どもの作品)。カードは福祉ホームの利用者さんが手作りしたはがきを使わせていただきました



「おもちゃランド」準備風景。魚釣りは大きなビニールシートを海に見立てて遊びます

広い年齢の子どもたちが夢中になって魚を釣る様子が見られます。また制作コーナーでは参加した子どもの興味や発達に合わせて取り組めるよう、授業や実習での知識や経験を生かしながら、活動を進めています。

これまで大学の文化祭であるかえで祭での活動を主としていましたが、二〇二二年度には横浜市青葉区のえだ福祉ホームさんでのクリスマス会に参加させていただきました。キッズスペースでクリスマスカード作りや魚釣りコーナーを設け、クリスマス会に遊びに来た地域の子どもたちと楽しく制作やゲームをすることができました。今後も、積極的に校外活動に取り組んでいきたいと考えています。

9月28(土)・29日(日)にみなとみらい21地区で開催されるヨコハマ大学まつりにWendy Houseも参加します(28日)。他にも東洋英和の講座やパフォーマンスがありますので、詳しくは、ヨコハマ大学まつりのサイトなどをご覧ください(大学ホームページにもリンクが貼ってあります)。

## 修了生による研究科紹介

### 心理士としての「原点」

人間科学研究科人間科学専攻臨床心理学領域

二〇〇八年三月修了

中村 麻里子

私は今「東洋英和こころの相談室」で心理士として働いています。電話の受付に始まり、窓口での対応、初回面接、継続してお会いしていく面接といった、相談室に來られる方々とさまざまな形で接する仕事の他に、臨床心理学領域の大学院生の実習を、相談室という「現場」でサポートするという役割も持っています。



相談室は大学院棟地下2階にあります。静かで心落ち着ける空間になるよう配慮しています

#### ■プロフィール

東洋英和女学院大学嘱託講師。臨床心理士。1976年生まれ。慶應義塾大学文学研究科哲学専攻博士課程単位取得退学。東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科修了。小児病院や精神科クリニックなどの勤務を経て現職。

私自身、東洋英和での修士課程の二年間は、この「こころの相談室」で実習生として大変お世話になりました。実習を通して、相談に訪れる人の心に寄りそうとはどのようなことなのか、考える機会をたくさんいただきました。それは同時に自分の心に向き合う厳しい作業でもあり、臨床心理学領域の先生方や相談室のスタッフの皆様、そして同じ大学院生の仲間の見守りがあったからこそ続けることができたと感じています。

修了後は、先輩・後輩を問わず、東洋英和の修了生と仕事先で思いがけず一緒になることがしばしばあります。東洋英和としての縁を感じると共に、あの忙しく充実した短い二年間の中に、自分の心理士としての原点となるような、心の体験と人とのつながりが詰まっていたのだと改めて思います。修士課程の二年間が、今後の心理士としての自分をいつまでも支えてくれるように感じています。

### 向学の志高く

国際協力研究科国際協力専攻

二〇一二年九月修了

船木 大

アメリカの大学を卒業し、アフリカの政治研究を志していた私は、二〇〇九年春、説明会に参加した。教員の皆様の情熱と社会人在校生の方々が懸命に奮闘されている姿に大いに触発を受けたことを昨日のことのように覚えている。

入学後、毎回の授業は驚きの連続であった。机を並べた面々は、それぞれの分野で



恩師の滝澤先生、共に切磋琢磨した同期生と、卒業謝恩会にて(一番右が本人)

#### ■プロフィール

東京海上日動グループインターナショナルアシスタンス株式会社勤務。1982年生まれ。東京都出身。テンブル大学教養学部卒業。東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科修了。

活躍されている大先輩、子育てに奮闘されている主婦の方々、学部を卒業したばかりのフレッシュなメンバーと多士済々。医学、教育分野、経済、ビジネス、コンピューターなどの専門家がいらして、多様な意見が飛び交う授業は、さながら有識者会議を彷彿とさせる光景であった。担当の先生方も、学生の自由闊達な議論を尊重してくださり、全員が遠慮することなく、主体者の自覚で授業に参加できるよう配慮がなされていた。

ただし、本当の勝負は、修士論文の作成であった。社会人学生であったため、物理的に時間を取る事が困難になり、何度もう心が折れそうになった。それでも、最後まで初志貫徹できたのは、指導教員の滝澤先生が、根気よく叱咤激励してくださったからである。

現在、保険会社の海外旅行保険を扱う部署で世界中から飛び込むあらゆるトラブルに対応する日々である。社会人学生にかくも高レベルな学びの場を提供してくださった東洋英和に感謝の思いで一杯である。



生涯学習センター

講座紹介

国際情勢を追い、予測する

立命館アジア太平洋大学客員教授  
元本学国際社会学部教授

津守 滋

昨年後期は六本木で、今年は前期横浜で、それぞれ東京都港区民、横浜市民の皆さんと、国際情勢を勉強しています。六本木では「アラブの嵐」、横浜では「揺れる北東アジアの国際関係」について。毎日の新聞やテレビに、勉強の材料が転がっています。「アラブの春」ならぬ「アラブの嵐」は今も吹き荒れています。シリアの情勢は泥沼化

し、トンネルの先に明かりが見えませんが、さらにここに来て今まで安定していたトルコも、連日の大規模な民衆のデモで、おかしくなってきました。もつともトルコはアラブではなく、またこの国の場合、一昨年初頭来の「アラブの春」とは無関係との見方もあるようですが。北東アジアに目を転じると、消化しきれないぐらい連日ニュースが飛び込んできます。台頭する中国の一挙手一投足は、国際政治、国際経済上世界の最大の関心事になっているし、アメリカとの間で太平洋を分割するなどという、海洋国家日本にとって看過できない構想も本気で議論されています。緊急課題として、尖閣などをめぐる日中間の緊張関係は、扱いを間違うと、大変な事態に発展しかねません。毎日採られたの材料を料理する——それが国際情勢を学ぶ魅力です。

2013年度 後期講座 申込受付中

横浜、六本木キャンパスにおいて、文芸・教養、語学、音楽・アート、スポーツ・フィットネス、子育て等の分野から100以上の講座を開講します。「日本史の検討」「アジア太平洋の地域主義の動向と日本外交」「のびのび君体操とエクササイズウォーキング」「横浜市民大学」「英和学入門」「こころの相談室から」等、後期から始まる講座もございます。資料のご請求、お申し込みは生涯学習センター事務室までお問い合わせください。

生涯学習センター TEL:045-922-9707

同窓生子女枠特別推薦  
入学試験のご案内

- 資料をご希望の方は、大学入試広報課(電話〇四五・九三・五五二二)までお問い合わせください。
  - 出願期間 二〇一三年一〇月七日(月)～一〇月一八日(金)消印有効
  - 試験日 二〇一三年一〇月二七日(日)
  - 選抜方法 書類審査と面接試験の総合評価
- 東洋英和女学院大学では、東洋英和女学院の大学、旧短期大学、中学部・高等部卒業生の御息女、御孫様、御姉妹、在学生の御姉妹を対象とした入試を実施します。

東洋英和女学院大学シンポジウムのお知らせ  
「これからの社会と女子教育」

- 第一回開催日 テーマ/「女子教育とミッションスクールの役割」  
一〇月二〇日(日)  
場所/新マーガレット・クレイグ記念講堂(六本木校地)  
パネリスト/内田樹 神戸女学院大学名誉教授  
村上陽一郎 東洋英和女学院大学学長  
モデレータ/三砂ちづる 津田塾大学教授
  - 第二回開催日 テーマ/「女子大学のこれから」  
十一月一七日(日)  
場所/パシフィコ横浜会議センター五階五〇三  
パネリスト/秋岡陽 フェリス女学院大学学長  
福井一光 鎌倉女子大学学長  
村上陽一郎 東洋英和女学院大学学長  
モデレータ/阿川佐和子 作家・エッセイスト
- (敬称略)
- 開催時間/両日とも一三時～一七時  
対象/高校生、大学生を含む一般の方々  
両日とも入場無料、申込不要  
問い合わせ先/大学総務課(電話〇四五・九三・五五二二)  
詳しくは決定次第、大学ホームページなどでご案内します。



## 中学部 高等部 宗教活動委員会

聖書科教諭 高橋貞二郎

生徒会の一つの組織として「宗教活動委員会」があります。これは建学の精神を具体化し、キリスト教にかかわる活動を展開する委員会です。今回は、各クラスから一人ずつ選ばれた委員たちの主な活動内容を紹介します。

### 毎朝の礼拝

中高部では、毎朝礼拝を行っています。小講堂と大講堂に分かれて行われることが多いのですが、それぞれの講堂へクラスごとに移動する時、先頭に立って誘導しています。クラス単位で、各教室にて行われるクラス礼拝では司会を担当します。



聖書輪読会:メモリアルチャペルで静かに祈りの時を持ちます

### 聖書輪読会の司会

毎週水曜日、朝七時四〇分からメモリアルチャペルで、生徒の有志が集まり、その日決められた聖書箇所を輪読

する会が行われています。委員はこの会の司会をします。

### ユニセフへの協力

夏休み、冬休みが終わった直後に外国コインを集めています。いつもは日本ユニセフ協会へお渡ししていますが、ユニセフ大使でいらっしゃる黒柳徹子さんが来校された時は、黒柳さんに直接お渡しし、感謝状をいただきました。



日本ユニセフ協会を訪問し、外国コインをお渡ししました

### 「口と足で描く芸術家協会」(通称「オールメル」)への協力

「口と足で描く芸術家協会」という団体があります。生まれながら・事故・難病などの理由で、手の自由を失った方々の自立を支援する国際的な団体です。委員は、芸術家協会会員が口と足で描いた絵画をデザインとした文具や日用雑貨を委託販売して協力しています。

す。六月には学内向けに、楓祭では学外の方々にも販売します。



オールメル販売

### 楓祭への参加

楓祭には毎年参加しています。世界の聖書の展示、聖書クイズの実施、さらには委員が司会や奨励を担当して礼拝などを行っています。手作りオーナメントなども販売し、それらの収益金は生徒会でまとめられ、二〇一二年度は「あしなが育英会東日本大震災津波遺児基金」に送られました。

### クリスマス

アドヴェント前に、正面玄関とエントランスホールにご降誕セットを置き、クリスマスツリーに飾り付けをしてクリスマスを迎える準備をします。また、この時期に「お米の一握り運動」を展開します。これは全校生徒に呼びかけ、お米を一握りずつ持って来ても

らうという企画で、二〇一二年度は集めたお米を被災地支援団体とホームレス支援団体へお送りしました。

クリスマスには献金がありますが、各クラスで集め、クリスマス讃美礼拝でささげるのも委員の仕事の一つです。



クリスマス献金をささげます

### その他

委員の主な働きは前述した通りですが、高等部の委員長になると生徒総会、体育祭、楓祭などの諸行事で開会祈祷なども担当します。

### さいごに

宗教活動委員会は、生徒側からの建学の精神の具体化を目指していますが、その活動内容は時代のニーズに合ったものでなければならぬと考えられています。これからは委員会でもよく検討し、その時々が必要にこたえつつ活動を展開していきたいと思っています。

## 3年社会科「東洋英和のあゆみ」を学んで

3年生の社会科では、歴史学習の導入として、東洋英和のあゆみについて学びます。昨年度は、学習を深めるために卒業生のお母様やおばあ様をお招きして、昔の学校の様子を聞かせていただく時間を持つことができました。今と昔の違いに驚いたり、昔も今も変わらないことに気づいたり——。ひとつひとつのお話が子どもたちの心に響いたようです。

### 戦争を乗り越えた小学科時代



昭和二六年高等部卒業  
新(旧)姓：松野文子

当時の小学科<sup>※1</sup>は今の中高部と同じ場所にあった昔の校舎の裏側一、二階に各三学級ずつあって入り口は裏側になりました。教室は小さく、校庭は女学校(当時は旧制で五年制の中学<sup>※2</sup>と一緒でしたのでとても狭かった印象があります。

三年生の十二月に大東亜戦争がはじまりました。最初のころは、シンガポール陥落などの勝報が伝えられると学校全員で旗を持って宮城(皇居)まで行きました。

今の小学部がある場所は当時、東久邇宮様のお屋敷で、今上天皇陛下の一番上のお姉様である照宮様がお興入れした時に旗を持って並んだのを覚えていています。

六年生の昭和一九年九月には東京中の小学校が閉鎖され、児童は縁故疎開または集団疎開となりました。

学習院、聖心、東洋英和の三校でどうしても東京に残らなければならぬ児童だけが五・六年一緒で一つのクラスで東京に残って青山学院で勉強し

ました。

昭和二〇年八月にようやく戦争が終わり、その後少しずつ疎開していた子どもたちが戻ってきました。幸いお友達には戦争で亡くなった方は居ませんでした。

私の小学科時代は戦争のために大変な目に遭いましたが、今の小学部の子どもたちは広い教室と広い校庭にも恵まれ、とても幸せだと思います。

どうか皆で頑張って勉強して東洋英和の良い伝統を受け継いでもらいたいと思います。

※1..その後、東洋永和女学院付属初等学校を経て昭和二年から小学部  
※2..昭和二年から新学制となり中学部、高等部に。私は高等部の一期生

### 三年生に語った感想



昭和三五年高等部卒業  
小谷(旧姓)：瓜生 美智子

今も強く印象に残るのは、後日、先生と子どもたちからスクールカラーの表紙をリボンで綴じたお礼状と感想文をいただいたことです。それによりまずと、私の話したことで子どもたちが一番驚いていたのは、校舎内に歯科治療室があったことのように、その他六本木への交通手段が都電しかなかったこと、ハミルトン先生が「心を尽くして」の聖句をいつもおっしゃっていた

たこと、カナダ人宣教師の先生から英語を覚えていただいたこと、六年生が短大の教室を借りていたこと、先生が礼儀作法、言葉遣いに厳しかったこと等が気づかれており、多くの子どもたちが「英和には素敵な歴史があることがよくわかり、お友だちもずっと仲良くしたい」と書いてくれていたことで、私の拙い話が子どもたちに伝わっていたことに安堵いたしました。

また、当日、授業が終わって、子どもたちが私の周りに集まってきて、私が襟につけていたブローチに「風のブローチだ。素敵！」と歓声。屈託がなく、明るく、素直で、私たちの頃も先生方との関係は密だったことを思い出すのでした。

社会の構造も、考え方も、環境もすっかり変わってしまいましたが、英和の持つ何ともいえない温かな雰囲気は、授業に参加させていただき、昔と少しも変わっていないと感じました。

子どもたちが「皆で助け合って仲良くし、もっと良い学校にして、素敵な英和の生徒になりたい」と書いていた一文に胸が熱くなったことは、生涯の思い出になりました。



(上)お母様、おばあ様方へお礼 (下)熱心に聞く3年生

## ようこそ 東洋英和幼稚園へ

幼稚園では二〇年以上前からバングラデシユに寺子屋を建てる運動をしている、アジアキリスト教育基金(エイセフ)の活動を支援しています。

五月にエイセフのバングラデシユ側の代表のアルバートさんとデニコさんが日本の事務所の方と共に東洋英和幼稚園にいらっしやいました。

五歳児は得意の投げゴマやけん玉など日本の伝承遊びを披露し、アルバートさんはギターの伴奏でベンガル語の歌を聞かせてくださいました。メロディーから「大きな栗の木の下で」と、子どもたちはすぐにわかりました。

その後、有志のお母さま方四〇名位が集まり、デニコさんから現地の映像を見せてもらいました。寺子屋で学んだ子どもたちは卒業後、職業訓練校で手工芸品作りを習い、手に職をつけて自立に向けて歩みます。お二人は、皆さま方の協力が継続していくことを願っている、と結ばれました。

その後再び、五歳児の子どもたちと交わりの時を持ちました。「なべなべそこぬけ」のわらべうたを歌って踊った後、アルバートさんは写真を用いて、寺子屋



オヨンくんの写真をじっと見る子どもたち



アルバートさんのギター伴奏で、デニコさんと歌を披露してくださいました

に通うオヨンくんの生活(服装・食事・寝る場所・勉強風景など)を教えてくださいました。異国の地にいるオヨンくんを身近に感じたひとときでした。寺子屋では文房具(鉛筆・クレヨン)が足りないので集めるお手伝いをしてほしい、と話され、最後に「ドンナバット」(ありがとう)の言葉をお互いに交わして、お帰りになりました。

神さまによって繋がる友だちのことを覚え、私たちにできることを続けていく大切さを確認し、祈りを合わせました。

## 大学付属 かえで幼稚園

## 木登りをする子ども

ここ数回、この誌面で子どもたちの遊びからのご報告をさせていただいていますが、今回は「木登り」です。

木登りは子どもたちの好きな遊びのひとつです。子どもは自分が登れる木を知っています。

大抵の子どもは、まず初めに園庭の木の中よりヤマモモの木を選びます。そのヤマモモの木は、

木の幹の下の方から枝が左右へと広がっているので、手足を

かけやすく、少し登ると枝と枝の間にホッと身を置く事ができます。木登りを始めたばかりの

子どもは「もう少し上まで行こうか」「この辺りでやめておこうか」「ここから降りられるかな」と、

慎重に自分の足場をさぐつていきます。

ヤマモモの木には、イチヨウの木があります。子どもは目の線程の高さに、太い枝があり、



木登りする子どもたち

そこをつかんで自分の体を持ち上げます。その枝は、他の枝に比べて表面が滑らかにすべすべとしていて、これまで何人もの子どもたちが同じ枝をつかみ、足を掛けてきたことを思わさせています。

なかまと一緒に話しながら、木登りの仕方を伝え合っている子どももいます。年長組の子どもがすると登っている様子を、木の根元からじっと見つめている年中組や年少組の姿もあります。なかなか登れずに悲しんだり怒ったりする子どももいます。それでも保育者は子どもを抱き上げて登らせてあげることができません。「登りたいのね」と気持ちを受け止めその子どもと一緒に「いつか登れるようになるのがたのしみね」と木を見上げたりコツを伝えたりしてその時が来るのを待ちます。少し高めの目標を持ち、そのことが実現できた時の喜びは、大きなものです。

木の上の方から「先生見て。ここまで登ったよ。空がなんだか近いよ。気持ちがいいな」と嬉しそうに呼びかける声に、私たちは「嬉しいわね」と応え喜びを共感します。

## 東洋英和幼稚園

■入園式 4月12日(金)

■新入園母子歓迎会

5月2日(木)

■父母の会 5月18日(土)

お父様・お母様と今年はずども一緒に、糸と紙コップで作られた楽器の演奏、『ストリングライフ』を観賞しました。

■歯磨き指導 5月30日(木)

歯科衛生士の岸玲子先生から、歯磨きのご指導をいただきました。

■母と子の遠足(四歳・五歳児)

6月5日(水)

四季の森公園に出かけ、自然の中でたくさん遊びました。

■五歳児キャンプ

7月10日(水)～12日(金)

親元を離れ軽井沢追分寮で生活を共にしました。庭でキャンプファイヤーをしたり、散歩に出かけました。



糸と紙コップで作られた楽器

## 大学付属かえで幼稚園

■入園式 4月11日(木)

三歳児四八名、四歳児五名の新入園児とご家族の方と共に礼拝を守りました。

■五歳児園外保育

5月9日(木)・30日(木)

年長組の子どもたちは前年度の三月より、園から路線バスで二五分程の「早野の森」で自然に親しみ、四季の移り変わりを感ずる時を置いています。森の中に身を置き遊びを見つけ出す中、風や光、木々の色等を味わっています。

■創立四〇周年記念講演会

6月5日(水)

福音館書店相談役であり、長年絵本の編集を手がけていらした松居直氏をお招きし、「ことばの喜び」と題してお話を伺いました。



早野の森にて

## 小学部

■入学式 4月10日(水)

気持ちのよい気候のもと、全校児童とともに八〇人の新入生を講堂でお迎えしました。

■春の遠足 4月26日(金)

学年によって行き先やプログラムは異なりますが、よい親睦の機会となりました。

■ペンテコステ礼拝

5月15日(水)

千代田教会の太田春夫先生をお招きして、「ことばのちから」というタイトルでお話を伺いました。子どもたちが神様の愛を示し、「世の光・地の塩」となることを願っています。

■運動会 5月25日(土)

勝負の行方が最後までわからない、手に汗握る大接戦となりました。



春の遠足～オリエンテーリング～

## 中高部

■中学部入学式

4月8日(月)

春の陽気の中、新中一、一九五名が新しい学校生活への希望を胸に入学しました。

■高二修学旅行

5月13日(月)～17日(金)

長崎では平和について学びました。心に残る思い出の旅となりました。

■中1オリエンテーション

5月13日(月)～17日(金)

軽井沢追分寮にて新入生たちが一緒に過ごし、親睦を深めながら聖書について学びました。

■高一カンファレンス

6月20日(木)・21日(金)

講師に五十嵐成見先生(花小金井教会牧師)をお招きし、高校生になった自分を見つめ、学びました。



高一カンファレンス

## 大学・大学院

【大学】

■入学式 4月2日(火)

■オリエンテーション合宿

5月24日(金)・25日(土)

大学での学長講演の後、千葉県富浦へ出かけ、ゼミごとに討論・グループワークを行い、交流を深めました。

■東京女子大学とのスポーツ交流会

6月22日(土)

第一〇回を迎えた今年は東京女子大学にて行い、五種目で競い合い、二対三で東京女子大学の勝利となりました。

【大学院】

■大学院コロキアム

7月27日(土)

平林国彦さん(UNICEF 東京事務所代表)による講演会を開催しました。



東京女子大学とのスポーツ交流会  
ラグロスの試合(黒いユニフォームが東洋英和)



## 楓ブレンド

東洋英和の中高部、大学人間科学部を卒業してからスターバックスに就職。コーヒーをお客様にお出ししていた日々から一転、司法試験に挑戦し現在弁護士として活躍中の木南さん。

「みんなそれぞれ違う『自分らしさ』+『英和生らしさ』のすてきな個性を持っているよ」という思いを込めて、「楓ブレンド」という題の文章を寄せてくださいました。

### 落ちこぼれ英和生だったところ

小学五年生のとき楓祭を見学して英和に一目(?)惚れ。中学部の入学試験になんとか合格できた。学力的には少し高望みだったけれどその分熱意でカバーしたと思っっている。

中高時代は遅刻は多いし成績もいまいち。それでも英和が大好きで大学もそのまま内部進学した。大学生になっても不真面目なのは相変わらずだったから就職活動で苦労するのは当然の成り行きだった。「就職できなかったらそのときはそのとき」とあきらめかけたところに大学の就職課の掲示板に一枚の求人票を見つけた。スターバックスコーヒージャパン。日本での店舗数はまだ一〇程度で知名度はほとんどなかった。私は前年にホームステイ先のサンタモニカでスターバックスに行ったことがあるのを思い出した。その年が初めての新卒採用と書いてある。新しいことに挑戦するのが好きな私は応募してみることにした。面接で感じた会社の雰囲気がよくよく「ここで働けたら」と心から思った。

### スターバックスの店長だったところ

私が入社したところは会社が急成長をはじめたところで次から次へと店

舗ができた。英和だから土地勘があるだろうと新規オープンのお六本木店に配属された。半年後にはやはり土地勘があるだろうと新規オープンの麻布十番店に異動。登校の時間帯には窓際のカウンターでコーヒード豆を挽きながら英和生の様子を見るのが楽しみで仕方がなかった。

そんな私も入社三年目にしてようやく店長になった。お客様にもスタップにも愛され利益もきちんと出るお店を作るのはやりがいのある仕事だった。店長によって店舗のカラーにはかなり違いが出るのだ。特に楽しかったのはアルバイトの学生さんを育成する機会を与えられたこと。学生さんが初めて「社会」と接点を持つていろいろなことを吸収し成長するのを見守るのは嬉しいことだった。

店長になって三つめの店舗を任せられたとき、ふと「このお店で自分の役割を果たせたら今の仕事に一区切りをつけ新しいことにチャレンジしたい」という気持ちになった。その年の夏休み、普段は新聞なんて読まないのに、たまたま旅行先の京都で広げた新聞に半年後にスタートする法科大学院のこと、司法試験の制度が変わること、いろいろな分野で経験を積んだ社会人が弁護士になることが期待されていることなど

が書いてある記事を見つけた。ここでも新しいものの好きの性分が出て「優等生じゃない私だからこそ弁護士になったらきつと世の中の役に立てることがあるんじゃないか」とすっかりその気になった。

### 弁護士を目指す受験生だったところ

まともに勉強したことがなかったから勉強すること自体が新鮮で楽しかったのは良かったが、大変は大変だった。好きだった仕事を辞めてまで挑戦したこと、家族や友人が私の無謀ともいえる挑戦をけつして笑わず信じて応援してくれたこと、この二つが大きな支えになったと思っっている。

法科大学院を修了して一回目の司法試験は不合格。そこから二回目の司法試験までの約八ヶ月は、朝六



KAEDE Magazineの取材で英和を訪ねた際の一枚

時に起きてから夜十二時に寝るまで自分の持てるエネルギーのほぼすべてを勉強に費やした。これまでの人生の中でこれほど何かに打ち込んだ経験はなく、とても辛かったが今思うと充実した日々だった。

### 今の私と英和に対する想い

弁護士の仕事をしていると、法律と一見関係のないように思える経験や知識が役立つことがよくある。そう思うと勉強が嫌いでも不真面目だった学生時代の経験も無駄ではなかったのかも知れない。

怖いもの知らずのチャレンジ精神や家族もあきれられるポジティブぶりや英和で培われたもの。また今でも「英和」という共通点で盛り上がり素敵なおつきあいがはじまることも多い。私が英和から受けとった恵みはどこかで誰かに少しでもお返しできるような日々精一杯過ごそうと思っっている。

■きなみ まほ / 弁護士。中学から大学の10年を東洋英和で過ごす。1998年にスターバックスコーヒージャパン(株)に入社。銀座、築地等の店舗の店長を経験。2004年に退職。現在弁護士3年目。目黒区祐天寺の蔵王法律事務所に勤務。事務所における担当業務は、一般市民法務全般(離婚、相続、交通事故等)。中小規模の会社の法務に関するご相談も多い。

m.kinami@zaoo.net

## 聖書の言葉

「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

マタイによる福音書 一〇章三〇・三一節



ここには私たちの人生と歴史の真の支配者は運命とか、宿命でなく、天の父なる神様であることが教えられています。私たちは、自分のことは自分が一番よく知っていると自覚していますが、自分の髪の毛が何本あるのかすら正確に知る事ができない者です。しかし、天の父なる神様は、私の知らないところまでも知り尽くされ、私の責任を負えないことまでも引き取り、そのすべての責任を負ってくださる愛の神であり、真の支配者、救済者であります。「わたしたち、すべてのために、その御子をさえ十字架の死に渡された方」が、私たちの人生と歴史の全知全能の支配者であり、また、イエス・キリストにあつて、受肉する神、私たちの歴史に巻き込まれる神、連帯する神であるのです。

常務理事 深町正信

## 訃報

— 心より哀悼の意を表します —

加藤信子氏 元中高部教諭等 二〇一三年五月一五日  
山本元子氏 元小学部教諭 二〇一三年七月一六日

## 史料室レター No.11

### 「東洋英和の絵はがき展 1914年より現代まで」を開催中です



絵はがき展 展示一部



創立30周年記念絵はがきセットのカバー(裏)

東洋英和では、おもに校舎の新築・改築や移転の際に絵はがきを製作してきました。並べてみると一七種類もありました。

その中で九九年前の一九一四年、創立三〇周年を記念して作製した絵はがきセットが最も古いものです。創立翌年の校舎前のミス・カートメル・教師・生徒の記念写真、一九〇八年の校舎などの貴重な写真が絵はがきになっていました。またこの年は東洋英和幼稚園が創設された年でもありますので、新築の幼稚園園舎の絵はがきもあります。カパーのデザインも菊と楓を表裏に散らして凝っています。おそらく、カナダで支援してくださっている方々へ女学校の近況を知らせるために、大いに使われたことでしょう。

その後は一九三二年のもの、ヴォーリズ設計の幼稚園伝導館献堂式記念、女学校校舎落成記念に続きます。戦後は各部の校舎・園舎の新築がだんだんカラフルに紹介されるようになってきます。その他、教員や卒業生が校舎や追分・野尻を描いたものや、外部の方が制作したものとテレホンカードも展示しています。

期間は十二月ごろまでの予定です。お近くにいらした際にはぜひ本部・大学院棟一階ロビーにて、時代の流れを感じさせてくれる絵はがき展をご覧ください。

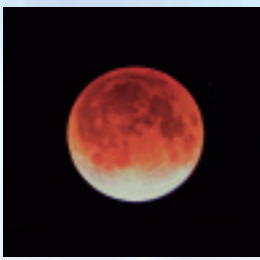
また、もしここに漏れている絵はがきや、古い絵はがきの現物をお持ちの方がいらしたら、どうぞ史料室にご連絡ください。

## 赤い月は 大地震の前兆!?

数年前、ある問い合わせの電話がありました。何でも：夏休み明けに登校した高校生の娘さんが「赤い月が見えたから近いうちに大地震が起こると学校の噂になってる。それは本当だろうか」と、非常に心配をしているとのことでした。

例年、夏から秋の初めにかけて、このような噂が立つことが多く、心配をなさる方は結構多いと思います。インターネットでも「赤い月」で検索してみると大地震が起こるのではないかという記事がたくさん出ています。

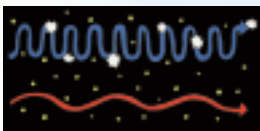
皆さんは赤い月をご覧になったことはあるでしょうか。実は、出て間もない月のように低空の月は赤く見えやすいのです。それは朝焼けや夕焼けと同じ理由です。月や太陽の光は高度が低い時は地球の大气の中を長く通って私たちの目に届きます(図1)。大气の中には塵や水蒸気など、光にとつて障害物となるものがたくさん含まれています。



皆既月食の時も月が赤く見えます (2011年12月10日撮影)



(図1) 高度の違いによる太陽や月の光の届き方



(図2) 赤系の光は、波長の短い青系の光に比べて、塵などにはねとばされる確率が低くなり、長く大気の間を通過してきて私たちのところまで届きます

長く大気の中を通つてくると波長の短い青系の光は途中で散乱されて私たちの目には届きません。波長の長い赤系の光だけが塵や水蒸気をすり抜けて私たちのところまで届くのです(図2)。

夏の満月は冬の太陽のように高度が低いルートを通つていきます。低空を通れば月が赤やオレンジに見える時間もそれだけ長くなり、夏は月が赤く見える機会が多くなります。また夏の大气中には塵や水蒸気も多くなりますので、他の季節に比べ、さらに月が赤っぽく見えるようになります。これとは逆に冬の満月が青白く冴え冴えと見えることが多いのは、月が高度の高いルートを通るうえに大気が澄んでいるからです。

そして：九月一日は防災の日。八月から九月にかけては防災関連の報道や番組が多くなり、防災用品も店の目立つ位置で売られるようになります。心理的にも大地震のムードを高めます。赤い月が見えた。大地震が起こるのでは？ と不安に思う人が多くなるのも頷けます。

## 後援会より

### 2013年度後援会役員会・総会報告

7月5日(金)、後援会役員会・総会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、出席者数は学院側も含め約400名でした。

役員会では、①役員改選案の承認と新役員紹介②常任役員退任と新任役員就任③2012年度収支決算④2013年度収支予算案について審議が行われ、全て承認されました。

総会では金子栄一後援会会長挨拶、村上陽一郎学長・副院長挨拶の後、学院出席者紹介、役員会審議事項の報告、退任・新任常任役員挨拶などが行われ、その後学院各部代表者より現状報告がありました。また、懇親会では、なごやかな歓談の時を持ちました。



後援会常任役員の方々

### 桜プロジェクト実行委員会からのご報告

ミス・カートメル誕生地ソールド市に最初の桜植樹が行われました。ハミルトン市も公園の中に桜の丘が完成予定です。宣教師を送り出してくださいましたカナダの地に皆様のご協力により「ありがとうございます桜」が咲こうとしています。現地での式典等順次ご案内して参ります。



## 同窓会より

### ■同窓会総会報告

梅雨の晴れ間となった6月1日、6会の同窓会が六本木校地に集まりそれぞれの総会を持ったあと、新マーガレット・クレイグ記念講堂で「同窓会は一つ」の思いで総会を開催いたしました。

急逝された池田理事長・院長先生をお呼びし先生のお唱讃美歌312番の前奏曲に黙禱し礼拝を始めました。議事はすべて承認され、2013年度の歩みがスタートいたしました。吾妻國年副院長から池田先生ご逝去に関するご報告をいただき、西田哲也法人事務局長より六本木再開発の現状と楓の会についてお話をいただきました。

池田先生が常に大切に示された「敬神奉仕」の建学の精神をしっかり受け継いで参りましょう。

催事には楓の会から生まれた混声合唱団ザ・メイブルズをお迎えし、オペラコンサートを楽しみました。お茶の会では懐かしい再会の輪が広がり、名残惜しみつつの散会となりました。

